

入角黄金物

御下簾蘇芳浮線綾、以色々糸縫、唐草小鳥、筒貫牽尻、金物、

或普通蘇芳下簾用之

鞞或無之

綱白如常、或打交、唐綾、在綱志部、

御雨衣張筵如常

——葺并廂總等、用白糸、其上打金物丸文、袖以金銅透之、立板外打金物、付風流居玉口綱打

交唐綾志在部綱

承元三年十一月御春日詣之時注之

〔代始和抄〕御禊行幸事

當日は大内より川原へ行幸なる略○中攝政は、或は騎馬、或は乘車なり、車はかならず唐庇を用ふ、

〔枕草子十一〕御經のことに、あすわたらせおはしまさんとて略○中先院三條院、藤原東の御むかへに、

殿藤原を始め奉りて、殿上と地下とみなまゐりぬ略○中日さしあがりてぞおはします、御車ご

めに十五、四つは尼車、一の御車はからの車なり、

〔榮花物語見はてぬ夢〕後の宮藤原詮子なやませ給ふ略○中おりのみかどになぞらへて、女院東

院三條と聞えさす略○中さて其年二年正暦のうちに、はせでらに參らせ給ひぬ略○中院は、からの御車

にてたてまつれり、

〔榮花物語御著裳〕びは殿一品の宮女三條皇の御もぎとて、春よりよるづにいそがせ給ふ略○中治

安三年四月一日ぞ奉りける略○中大宮藤原彰子は御こしにておはしますべけれど、一品の宮の

ことに奉らんかひなければ、唐のみくるまにておはします、